

「アナログ技工とデジタル技工の今を視る

～デジタルデンティストリーの潮流に何を見据えるべきか?～」

講師 岡田 尚士

歯科技工業界の中にデジタルデンティストリーの広がりを見せる中、CAD/CAM システムも大きな変革を示して来ています。例えば模型等をテーブルトップ型のスキャナーで計測する方法が主流であった技法が、今日ではフリーハンドスキャニングによる直接口腔内をスキャニングする IOS（インターオーラルスキャナー）システムに移行しつつあります。

また、CAD システムにおいては、今日はミリングシステムである切削加工法による補綴装置製作作業が主流である時世の流れも、将来的には 3D プリンティングシステムによる積層加工法による補綴装置製作作業に移行することも考えられます。しかし、すべての CAD システムが積層加工法に移行するとは考え難いところもありますが、今後、歯科技工環境においては一定のシェアを確立してゆくものでないかと考えられます。

今回演者は、今日のアナログ技工とデジタル技工の状況が将来的に社会的変遷としてどのような変革を示してゆくのか? 今を鑑みつつ、近未来における歯科技工業務の在り方に就いて一言ご提言をさせて頂ければと思います。デジタルデンティストリーの今後の展望について、私見を交えましてお話が出来ればと思います。